

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員や入居者様の見ることができる位置にホームの理念、玄関先には法人の理念を掲げている。また、毎年理念に沿った対応は何か研修を行い、共有している。	玄関には、法人理念社提を基に地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、職員で作上げた事業所理念を掲げ日々の支援に努めている。新入職時に説明するとともに倫理の研修にて振り返りの機会を持ち、理解や意識づけを図っている。また、法人社提や事業所理念は玄関に掲示されている他、各ユニットのフロアーの誰もが見られる場所に掲示している。日々確認することでサービスの質の向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り回覧板等で地域の情報などを共有している。新津祭りには駐車場まで山車は入り、ホームのご利用者も参加している。	事業所は町内会に入っており、週に一度勉強会に管理者は参加している。参加した内容は職員に回覧され、研修資料に閉じられている。回覧板で得られた地域の行事は利用者に分かりやすく提供されている。地域の夏祭りには、2階建ての山車が日中は子供、夜は大人に引かれ一緒に踊ったりと地域との交流が図られている。また、地域の神社や公園に散歩するなど地域の一員として日常的に交流するよう努めている。また、運営推進委員会会議でも交流の様子が報告されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方が突然来られ、見学をご希望され、案内させていただいた。ご利用者の皆様も快く受け入れてくださった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	資料を配布参加をお願いしている。コロナ禍をきっかけに参加は少ない状況が続いている。区長さんにお会いした際に「忙しくてなかなか参加できないが資料は読んでいますので続けて送付して下さい」とのことだった。	運営推進会議は2ヶ月に1度、包括支援センター・町内会長・家族・利用者等の参加を得て、事業所内で開催されている。事業所の活動などを資料の他、「お祭りや避難訓練の様子」など動画や写真など活用し報告している。また、参加者から、ヒヤリハットについての意見や避難訓練について予め知らせてほしいと意見があり、次年度、避難訓練前に案内を送ることで家族との緊急連絡の方法を実施練習する「計画」を検討中である。運営推進委員会議の資料は、利用者家族全員に送付しており、玄関の面会簿と一緒に置かれいつでも閲覧できるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアマネ部会、手帳委員会に加入し、研修参加や情報交換を行っている。	包括支援センター職員が運営推進委員会会のメンバーでもあるため、事業所の取り組み等を報告し情報共有を図っている。また、秋葉区介護支援専門連絡部会では担当者と交流を図り、研修等も含め内容は職員に回覧報告されている。その他「むすびあい手帳」の手帳委員会へ参加するなど積極的に協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月ごとのアンケートと委員会開催。	倫理及び法令遵守に関する研修を実施している。安全面に配慮した自由な暮らしが提供できるよう玄関は施錠せず、赤外線センサーを設置しており、寄り添う形で日常生活を支援している。また身体拘束防止マニュアルは整備されており、身体拘束委員会は身体拘束チェックシートを3ヶ月に1回は実施し、身体拘束しないケアについて積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症の方とのかかわり方の研修を通し職員一人一人が声掛けを行い不適切ケアなど虐待の芽を気付けるようにしている。不適切ケアに関する目標設定と振り返りを行っている。	身体・高齢者虐待防止委員会があり、高齢者虐待防止のための不適切ケアチェックシートを使用している。3ヶ月に1回、15項目あるアンケートを実施し振り返りと意識づけを行っている。委員会が集計し評価し会議録にて報告している。1年毎に取り組みを確認し重点項目を検討している。施設内でも年間の研修計画が立てられ、身体拘束の排除・高齢者待防止に関する研修、認知症及び認知症ケアに関する研修も行われている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、必要時には包括に相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけ十分な説明を行っている。それ以外でもご家族様の不安や疑問などにはできるだけ対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話での相談内容は申し送りに記入し職員に周知を行い、反映している。	家族からの意見や要望は、面会や電話で伺い記録に残し職員に周知している。利用者からの「職員の異動に伴いスタッフが分からない」の意見には、エプロンにフルネームまたは苗字を入れる形で利用者に分かりやすいように対応している。その他、対応内容等は会議の資料に入れ報告している。今回の外部評価の改善点についても対応するなど意見や要望を運営に反映するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社の方針を各ユニット会議で伝達している。ユニット会議で出た意見は生産性向上委員会で反映している。	職員から出た意見、ユニット会議で出た意見・要望で「Wi-Fiが入りづらい、アイパッドの打ち込み入力に支障がある」は、生産性向上委員会にて業務調査を行い改善を図っている。改善されたことで、見守りが手厚くなり、ユーチューブの体操をとり入れるなどサービスに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人のスキルアップのための助成制度を活用できるように働きかけ、資格祝い金や勤続特別手当など支給し向上心を持ってもらえるよう整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加できるように情報を開示したり、研修費や交通費など助成を行っている。法人内では職員自ら講師になることですぐに仕事に生かせることを周知できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加したりケアマネ部会で集まることで他施設の取り組みなどを知る事ができ、サービスに変化を作ることができる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人のご意見をサービスに反映できるよう、初めの一カ月は信頼関係を築くことを大切にし、安心してサービスを利用できるようサービスを作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の状況に沿えるようにスケジュールを組み、ご意見をいただいている。入居者様の状態を踏まえ一緒にサービスを考えている。また、相談等ある際は時間をかけ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具やヘルパーさんによる受診介助など入居によりサービスが途切れることが無いように、ご家族の負担が強くなる事が無いように相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内で一緒に食事をつくり一緒に食べることで、共同で生活している関係を育むようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のおたよりや電話などの際に最近の様子などをお伝えしている。また、変化等があった場合はご家族様と相談しながら対応を検討している。	受診の付き添いや事業所への来所時に日頃の様子を伝える他、毎月の「ふれあいだより」と個別の当月の活動の様子や体重・血圧・体温等日頃の状態や連絡事項も含め「個別の月だより」を送付している。また、状態変化時は家族と相談し対応に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	軽自動車に変わりドライブの回数が減少している。新しい出かけ方の方法を模索している。	事業所では、家族や地域との関係を大切にしており、馴染みの場所に行けるよう、日頃より一人ひとりの生活習慣を尊重し支援に努めている。家族との外食、お墓参り、自宅への外出、外泊や職員と近隣の神社への散歩参拝や外食支援など個別に対応し支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の状態や状況を確認し他入居者様との関係性を作れるよう努めている。なじみの席と作業やレクの場面によって席をつくりスタッフが間に入りながら関係を作れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もホームでの様子やその後の様子などで心配な事等があれば相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃、入居者様の思いをくみ取るように声掛けをしている。また、状態を職員全員が把握できるように申し送りを活用している。	リビングダイニングの脇に設置された長椅子と一緒に座り、思い出話しの「サツマイモ」等のキーワードから他の利用者も参加し話題が広がる。利用者の思いは、申し送りにて職員間で情報共有され、レクリエーションとして「サツマイモ」を蒸かし食べている。職員は、日々の関わりの中で声掛けし些細な事でも本人から発せられる言動や表情から大切に一人ひとりの希望や意向をくみ取るよう努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人やご家族、関係サービスに聞き取りを行い、ホームでの生活に継続できるものなど検討している。	入居に際し自宅やデイサービス等で本人、家族と面談しこれまでの暮らしのぶりを聞き取り、入居前情報シートに記入・利用者基本情報にまとめている。また、関係機関のケアマネジャーより情報提供してもらいサービス利用の経過把握に努めている。入居後に変更になったものは担当スタッフより書面で訂正してもらい1年毎にパソコン内にて上書き修正している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の小さな変化や対応など経過記録に残し、必要時には申し送りをして共有している。定期的に話し合いの場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要時、定期的にご本人様やご家族様、職員等より聞き取りを行い今必要としているサービスを提供できるようにしている。	入居時の様子は家族から基本情報として申込書に記入してもらい、各ユニットの計画作成担当者を中心に居室担当者とアセスメントシートを活用し、意向確認して計画作成している。状況確認表と記録簿に記載して1年ごとに見直している。ユニット会議でも実施状況を話し合い、随時モニタリングを行い見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を経過記録に残し、変化や気づきはその都度申し送りし共有している。また、定期的に話し合いやモニタリングを活用し見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族などの状況に応じて、支援方法やサービス内容を話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事などでは秋葉ならではの歌や踊りを一緒に楽しむことで、自然に昔話が行えるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	むすびあい手帳を活用しホームでの様子がご家族様や医師に伝わり連携が取れるようにしている。	入居前からのかかりつけ医に受診している方が多く、家族に対応してもらっている。家族が困難な時は職員が代行する時もある。事業所の協力医は、月2回の往診があり、秋葉区共通の「むすびあい手帳」により、医療・介護の情報共有が出来ている。また、週1回定期的に訪問看護があり健康管理や相談し連携を図っている。薬剤師による薬の管理・配薬がなされ適切な対応が出来るように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療系の出来事や変化を経過記録に残すことで定期的に来られる看護師に聞き漏れのないようにしている。また、緊急時には24時間体制で連絡も取れる為、対応がスムーズに行える。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院やご家族様と連絡をとり、情報を共有し、退院後もスムーズにサービスが継続できるように相談等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応実績はないが、状態変化時などはご家族様と連絡をとり相談している。また、看取りについての研修も毎年行っている。	入居契約時に「重度化対応に関する指針」で重度化対応に関する考え方、ターミナル期の援助方法、家族等との連携、医師や医療機関との連携体制について詳細に説明するとともに、家族の意向確認しながら支援している。看取りの研修も計画しながらチームで連携出来るように取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、それをもとに実際に対応できるよう研修を行っている。	緊急時や事故発生時のマニュアルは整備されており、電話周辺に緊急連絡網やアクションカードを分かりやすく整備し、慌てずに対応出来るようになっている。入居者の起こりうる症状ごとの観察ポイントや対応の仕方など定期的に研修を行い、全職員が知識・技術の習得に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	浸水時や地震などの災害時に対応できるようマニュアルを作成し、それをもとに研修を行っている。	災害時の対応の仕方についてもマニュアルが整備されている。火災想定では年2回の計画があり、昼夜想定での避難訓練を実施している。水害想定でも避難訓練を実施し、避難場所、避難経路の確認とともに緊急連絡網をLineで繋いでいる。自家発電も整備されており、使い方を学び職員全体で周知している。地域の自治会長・近隣住民と連携も図っており協力体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修を行い、入浴時や排泄時などの場面に応じて配慮した声掛け等が行えるようにしている。	介護現場で気を付けたいプライバシー保護の研修や、ハラスメント防止の研修などが定期的実施されマニュアルも整備されている。また、定期的アンケートを実施するなど各職員から問題点を出し合い、検討し改善に向けて話し合っている。日々の生活の中で入居者を尊重し配慮した声掛けや対応の仕方を心掛けて実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中からご本人の希望などを聞き、できるだけ対応できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事などの声掛けはするが、無理強いすることなくご本人様のペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時または定期的に声掛けを行い訪問理美容の予約をとっている。また、着替えなどはその日の気候などを考慮し、選んでもらっている。化粧品はご家族が用意してくださる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の中で残されるものや食が進むものを確認したり、食べたいものを聞き、お弁当をとったりしている。いただいた季節の野菜の下拵えの楽しみも感じられている。	毎日の食事を一緒に取りながら、好んで食べる物や残される物など観察して好みを共有している。メニューから肉を魚など代替えしたりして提供している。能力ある出来る人からは、食材切りや盛り付け、配膳や片付けなどその人にあつた参加の仕方でも力を発揮してもらっている。毎月の行事として外食支援や弁当などを取り入れたり、家族からの差し入れを調理したり、楽しみながら笑顔あふれる毎日を送れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量などを確認しこまめに声掛けや補助食などをすすめている。日頃召し上がられてたものを食べて頂くなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔状態を確認しながら、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し一人一人の排泄パターンに合わせ、声掛けや誘導を行っている。	日頃の様子を観察して一人ひとりの排泄パターンを把握して確認し、排泄チェック表に記録している。個々に合わせた声掛けや誘導を行うことで自立に向けた取り組み、快適な生活を送れるように支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給の時間を作り、乳酸菌飲料やゼリーなどの食物繊維を取り入れている。また、無理のない程度の運動や体操を行えるように声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を週2回予定しているがご本人様の希望や体調に応じれるようにしている。	入浴は週2回を基本としているが、その時の体調や気持ちに寄り添い入浴支援している。1階と2階で浴室の造りに違いがあり、入浴しやすい環境となっている。着替えなど一緒に準備し、一人ひとりの好みのシャンプーリンスが用意され、個別の洗剤・柔軟剤なども「名前」を付けて準備されている。季節によりゆず湯など、楽しみを増やす支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事や水分補給などの声掛けなどはさせて頂くが、日中居室で休みたいなど言われる方などいるため、比較的自由に過ごしていただいている。また、天気の良い日には玄関先で日光浴やドライブなどに出かけ日中の活動量を増やしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	くすりの変更時やご本人様の状態を薬剤師に相談できるように環境を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで使用していたものをそのまま継続したり、趣味などを生かせるような支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おやつ外食や出前や弁当など入居者様が希望されるものを提供している。ドライブや散歩など天気の良い日にはできるだけ声掛けし行っている。	家族との受診外出で自宅に立ち寄ったり、買い物や食事する事もあり、家族との絆を大切に支援している。天気の良い時などドライブ外出や、近所を散歩したり臨機応変に対応した支援に努めている。駐車場内の花壇やベンチで日向ぼっこしたり、洗濯物干し・取り込みなど日常生活の一部として行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないが買い物などはご本人様の代わりに職員で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りを行えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに行事の案内や写真を貼ったり、季節に合った飾りを入居者様と作成し飾ったりしている。	玄関・廊下・階段など全体に広く明るくて整理整頓が行き届いている。天井も高く明り取り窓により自然光が差し込み温かさが感じられる。共有空間も明るくゆったりとしており、好みのソファで休んだり、畳スペースでくつろいだりと、居心地の良い空間となっている。壁面や周囲には入居者の季節の習字・作品や写真などが飾られ、季節感を感じられる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな場所で過ごせるようにテーブルの位置を変えたり小上りやソファなどを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時などは馴染みのものや洋服などを持ってきていただき、写真などの思い出のもの飾ったりされてる。	居室内は洗面台や収納庫も設備されており、それぞれ整理整頓され使いやすいように配置している。入居時に馴染みの物や家具・テレビなど持ち込んでもらっている。思い出の写真などを飾り、居心地良く過ごせるような空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆様が自由に移動しやすいように歩行器等置き場所に置いてもらえるよう声掛けしたり場所を決めて整理整頓している。		